

ヘアドネーションで生まれた笑顔

中 一

私は去年、腰くらいまでであった髪の毛を肩につかないくらいに長さまでばっさり切りました。なぜそんなに短く髪の毛を切ったのかというと、近所のお姉さんに「ヘアドネーション」という活動について教えてもらったからです。そのときまだ小学三年生だった私は、ヘアドネーションという活動に興味をもちませんでした。

小学四年生だった私は、ある日、テレビで「がん」について詳しく知りました。そして、私にも何か協力できることがないかと思いました。そんな時、以前教えてもらったヘアドネーションについてもう少し詳しく知りたいと思い、母にインターネットで調べてもらいました。インターネットでは調べたら、小児がんにかかった子のウィッグとして、自分の髪の毛をプレゼントするということでした。そして、自分と同じ年、またはそれよりも小さい子も小児がんを闘っていることを知りました。私は、がんとは、おじいさんやおばあさ

んなどのご年配の方がなるものだと思いこんでいました。でも、その考えは間違っていました。そのとき私は、がんを闘っている子とその家族に少しでも多くの笑顔を届けたいと思い、ヘアドネーションのために髪の毛を伸ばすことに決めました。

実際に髪を伸ばし始めると、髪が短い頃と比べてとても大変でした。何度も切ってしまうと思いましたが、髪が長いと洗うのに時間がかかります。そして、洗うとき以上に乾かす時間がかかります。でも、大変なことばかりではありませんでした。休みの日には、友達と髪を結び合って遊びました。髪の毛は女の子の宝物です。がんになると抗がん剤治療をします。すると、薬の副作用で髪の毛が抜けてしまいます。女の子の宝物がなくなってしまうその悲しさを、私の決意と行動で救えると考えると、そこまで苦ではありませんでした。

二年半ほどかかり、ヘアドネーションの活動に参加できる長さになりました。インターネットでは調べると、A市にある美容室が活動に対して特に積極的だったので、その美容室に行きました。寄付するための髪は、三十一センチでばっさり切り落とします。後で手直しができないので美容師さ

んは切る前に、

「本当に切っていいんだね。」

と言いました。それまで私は、早く切って、早く寄付してあげたいと思っていたはずなのに、美容師さんにそう言われて「どうしようかな。」と思いました。今まであんなに寄付したいと思っていたけれど、一気に短くなると思うと少し悲しくなりました。すると、それまで黙っていた母がこう言いました。

「もし、あなたが切りたくないのなら切らなくてもいいんだよ。でも、小児がんにかかった子のために今まで伸ばしてきたのだから、寄付してあげたらどう。また、あなたの髪は伸びるのだから。」

私は母の言葉にはっとしました。

「やっぱり切ってください。小児がんにかかった子のために。」

腰までであった私の髪は、生まれて初めてのショートヘアになりました。私は切ってもらって、本当によかったと思っていきます。もし、あのとき切ってもらわなかったら、今でも後悔していたと思います。

私は、まだ成人していないので、誰かのために役に立つことはできないと思っていましたが、世の中に貢献できることがありました。また、今回の活動を通じて、同世代の子が、がんで苦しんでいることも分かりました。私はその中で、健康に暮らせていることのありがたさに気付くことができました。外見を気にして自信をもてなかった子が、ヘアドネーションによって外見を気にすることがなくなり、笑顔があふれる生活を取り戻すことができ、望みます。きっと今、私の髪の毛はどこかで誰かを、笑顔にしてくれていることでしょう。